

## ソバルナ・ラックマン氏（インドネシア）

私は、インドネシア国政府エネルギー・鉱物資源省にある火山/地質災害研究所で主席研究員として勤務しております。これまで、地質環境問題についての取り組みや、地方政府や NGO の担当者に対して防災関連の指導を行うなどのプロジェクトについて携わってきました。

インドネシアは、1 万 7 千余りの島々から構成され、火山帯や山岳、断層、河川、湖沼などが点在していることからわかるように、地形・地質的に非常に複雑多岐にわたっています。このような地質の多様性が言うまでもなく、自然災害を引き起こす要因となっており、火山噴火や地震、津波、地滑り、洪水など様々な災害が起りやすい状況にあります。地滑りや土石流、洪水などは大雨が降ることで頻繁に発生しており、その傾向は近年ますます深刻になっています。とりわけ、地滑りなどの土砂災害は、発生地域が予想しにくく、環境破壊との因果関係にもあります。

わがインドネシア政府では、こういった自然災害に対応すべく、次のような 3 つの政策を掲げて取り組んでいます。①軽減・抑制・リハビリ活動を重視する、②災害被害者を迅速に避難させ、安全に誘導する、そして③こうした防災活動になるべく多くの関係者を取込むことです。

ADRC 客員研究員としての目標は、① ADRC メンバー国間における防災関連情報を共有すること、②日本の防災対策について学ぶこと、③その学んだ技術を自国の発展のために活用することです。

（ソバルナ・ラックマン主席研究員、インドネシア国政府エネルギー・鉱物資源省火山/地質災害研究所）

